

## チェコのローカル線を訪ねて-2007-初夏②

高島 伸幸

2007年6月16日(土)曇り

今日は早起き。6:20頃レストランにゆくと扉が閉まっていた係りの人がまだだと言っています。それはそのはずで朝食は6:30から。しかしまだ準備が終わってないよと言いながら扉を開けてくれた。7時過ぎの急行に乗るのでできるだけ早く朝食を取りたいのです。朝食を食べていると、どこからか日本語が聞こえてきます。さすが日本人観光客は早い。さっさと食べ終えて部屋へ戻りました。

7:19発急行907レに乗るために7時過ぎにBrno駅へ向かいます。しかしこれまた乗り場がわからないで困りました。駅員に聞くと地下道を通して向こうだよと教えてくれました。ようやく列車を見つけてコンパートメントに乗り込むとは空いていて貸切です。しかし、電気機関車が付いている向きとは反対に推進運転で走り出しました。また構内入換をしてから発車するのかな？と思っていると一駅推進運転して次のBrno Zideniceに運転停車しました。そして、何もなかったように電気機関車を先頭に走り出しました。どうやら工事のため、別路線を走るようです。

Holubiceから正規のルートに戻りました。この間停車駅は無いので乗客に実害はありません。NezamysliceでOlomoucへの路線に入る



と車窓は延々穀倉地帯で緑の穂が続きます。7分遅れの8:58にOlomouc到着しました。

乗り換えのホームに向かうとまだ列車は入線していません。発車時刻が近付くとDCを先頭に列車が到着しました。降車が終わり、早速乗り込むと係員が降りろと言います。どうやらこの車両を切り離すようです。しかしこの車両は動力車です。

あとの車両はトレーラー（キサハ）。他の車両に移ると既に座席は埋まっています。数少ない空席に腰を下ろすと小学生らしき生徒たちが多数ホームに上がってきました。この数では乗り切れないと思ったら発車時刻を過ぎたにもかかわらず増結を始めたのです。キサハ2両を増結していた入換機のようなDLが、キサハ4両を牽引して821レは10分遅れの9:25に発車しました。

市街地を抜けると溪谷沿いを遡ってゆきます。天気は悪くなってきて小雨が降っています。勾配を上りきると高原を走るようになりました。放牧地の真ん中の小駅Detrichov nad Bystřicíで交換待ち。高原を下ってゆくと支線の分かれる大きな街Bruntalに着きます。ここで小学生らしき生徒たちは降りていきました。

10分遅れたまま、乗換駅のKrnovに11:14に到着しました。接続予定の3512レは11:08発

で発車時刻を過ぎています。待ち合わせていた単行気動車に乗り込もうとすると、車掌はまだ出ないから大丈夫だという。それもそのはず、先ほど降りた列車の交換相手の列車の到着を待っていたのです。双方の乗り換え客を満載した単行の気動車は結局15分遅れの11:23に発車しました。山と山に挟まれた平地を進んで行きます。そして右手はポーランド領とは信じがたい。

ナロー線が分岐するTremesna ve Slezskuに15分遅れの11:40に到着しました。谷間の小駅で駅の周りに家が数軒固まっています。列車を降りると駅舎がありますが、ナローの線路が見えませんが、駅舎を通り抜けて駅前に回るとホームがあり、小さいDLが小さい客車を1両連結して20607レは発車を待っています。こちらも15分遅れの11:45に発車しました。

右にカーブして本線と分かれてゆきます。丘陵を越えてゆく間に早速車掌が検札に回ります。今度は国鉄線なのでパスが使えました。本来こちら側はポーランド領になるわけなのですが、このナロー線が走る沿線だけ半島のようにポーランド領に食い込んでいます。

結構乗車率はよく、先ほどの列車からずいぶん乗り換えました。途中の停留所で少しずつ降りてゆきます。この路線の両側には畑が広がります。なぜか、山すそに杭が等間隔に打ち込んであり、たまに立て看板が立っています。どうやらこれが国境のようです。

停車時間を切り詰めたのか終点のOsoblaha



20608レ Osoblahaにて



20607レ Tremesna ve Slezskuにて

に6分遅れの12:20に到着しました。すぐに機関回しが始まります。ここには小さい車庫があり、機関庫を解放していて、自由に見学ができるようになっていました。

まだ折り返し時間があるので記念撮影をして駅前をぶらっと散歩します。駅前には畑が広がっていて、その先に集落が見えます。右手の機関庫の向こうはポーランドとの国境で、その向こうに家があるのですが、そこに行く道がなんとありません。行き止まりになっているのです。

20608レは13:00に発車しました。今日は土曜日だからか結構若いマニア様御一行が乗っていて、途中駅での撮影に余念がありません。私のボックスには地元の学生と相席になりましたが、途中のちょっとした集落のある駅で降りてゆきました。そんなわけで結構乗り降りがあり、ローカル線のはずなのですが、この乗車率には驚きました。

Tremesna ve Slezskuに13:44に到着しました。近くに店が見当たらず、昼食どころか飲み物も購入できないようです。順路ならばばらくこの駅で小1時間接続待ちなのですが、食べ物にありつけそうも無いので13:48発883レに乗って先ほどのジャンクッションKrnovまで戻ることとしました。

駅の売店でバケットサンドと飲み物を買って、14:20発の882レに車掌に行き先を尋ねて乗り込もうとすると、後ろに乗れという。この駅で列車が分割されるのであった。危ない危ない。キハ+キサハ+キクハの3両編成で

す。ナロー路線との分岐駅を過ぎて次の駅を出てしばらくするとポーランド領に入ります。別に景色が変わるわけでもなく、川を渡るわけでもありません。しいて言えば、電信柱と踏み切りの標識が変わり、ゆっくり走ります。

ポーランド式の腕木式信号機に迎えられ、Głucholazyに到着。ここは、ポーランドの駅で、なんかクラシックな感じがします。信号やポイントは手動で、ここで進行方法を変えて発車します。女の子が一人降車すると駅舎から出入国審査官が出てきました。なお回廊列車なので、この駅で降りなければチェコ国内列車の扱いとなります。ただ、時刻表上はこの駅での旅客扱いは無いようなのですが。

駅構内を出ると村の中をゆっくりと走ります。ここはポーランドの村で、森に入り、渓谷になるとスピードが上がります。チェコ国内に戻ったようです。

Mikuloviceで国境沿いの村に行く支線を分け、停車中の単行のレールバスに数人乗っています。谷間を進んで、Jesenikに15:40に到着しました。接続の快速列車は姿が見えません。どうやら遅れているようです。しばらくするとDLが姿を見せて到着すると、すぐに機回しが始まりました。

17分遅れの16:00に1704レは発車して、支線の分岐するLipova Lazneで普通列車と交換しました。その交換した気動車が気になっていた旧型気動車だったのです。窓を開けて写真を撮っているとドイツ人鉄ちゃんから「今のナンバーいくつだった？」と声を掛けられ



ます。両手を挙げ、手のひらを水平にして「わからん」とポーズをとると残念そうな顔をしていました。

谷間を進んでゆくと左の山の上に駅が見えて、左にカーブを切りながらアーチ橋を渡ります。勾配を上がるとHorni Lipovaに到着しました。若いマニア御一行が降りてゆきます。ここはオーストリアのセンメリング峠に引っ掛けて「ミニ・センメリング」といわれているようです。しかし、規模は全然小さい。先ほどのドイツ人鉄ちゃんが窓の外を指差すと貨物列車と交換しました。

Hanusoviceに10分遅れの17:01に到着しました。次の急行の間まで支線を一往復します。13670レ単行ワンマンレールバスは、8分遅れの17:05に私に行き先を確認してから発車しました。本線から左にカーブして山間へ入ってゆきます。なお、乗客は私一人で貸切です。信号所で右の谷へ分岐しました。渓谷を進む支線のまた支線です。リクエストストップなので途中の駅はどんどん通過してゆきます。突然視界が開けて、盆地が広がりました。村が見えてくると、4分遅れの17:20に終点のStare Mesto pod Sneznikemに到着しました。

もともと折り返し時間は5分しかありません。急いでエンド交換を行い、無人駅なので運転士が乗客に切符を発行して13671レは5分遅れの17:26に発車しました。小さい子供が運転室に招かれます。この路線では乗客はみな顔見知りのようです。来た道に戻り、小さな子供たちが車内へ戻ってくると、Hanuso



viceに2分遅れの17:42に到着しました。

接続の急行のR908レはすでに発車時刻のはずですが姿がありません。そのうち駅舎から放送が流れました。やはり遅れているようです。その間にこの駅止まりの普通列車が到着したのだが、その気動車がまた先ほどの旧型気動車でした。結局18分遅れの18:00に発車しました。これ以上遅れると本線との接続駅での乗り換え時間が無くなります。検札に来た車掌にも一応言っておきますがどうなることやら。

本線との接続駅Zabreh na Moraveに18分遅れのまま18:30に到着しました。地下道へ降り、走る走る走る。無事18:31発急行のR626レに間に合いました。この先の区間には峠がありません。幹線だからか高速新線のように線路を付け替えてあり、高速で飛ばします。

この急行には食堂車が連結しているはずですが、夕食を食べに行くのではありません。車掌に尋ねるともっと後ろとの事。1等車を通り抜け、最後尾に連結されていました。しかし、従業員がいません。先ほど飲み物の車内販売とすれ違いましたが、もしかして…。そうです一人勤務なので車内販売に行ってしまうと無人になるのです。

おばさんが車内販売から帰ってきました。暑いからかズボンにタンクトップという格好です。非冷房だから仕方ありません。まずはビールを注文します。料理はこの前乗ったのと同じなので、今度はハムエッグを頼みました。しばらくすると厨房からいい香りが。



ハムエッグ定食



Lipova Lazneで旧型気動車と交換

卵3つとハムが3枚で付け合せのサラダも付いています。パンも出てきて結構満腹になりました。味はこれこそお袋の味です。

Usti nad Oriciの側線に入って運転停車したまま動かなくなりました。その間超特急電車のペンドリーノと客車特急に抜かれました。忘れた頃に発車して、平原の直線を飛ばします。今晚の宿泊地Pardubiceに15分遅れの19:59に到着しました。

今夜の宿は予約していません。下調べはしてありますが、まず駅前のホテルが見当たりません。仕方なく、街の中心方向へ歩きます。土曜の夜なのか（まだ明るい）人通りが少ない。しかし、駅前に高層アパートとは旧東欧圏らしい。しばらく歩くとスーパーがあり、その後ろにホテルと書いたビルが建っていました。なんか人気の無い、商売っ気がうかがえない入り口へ入ります。フロントには人がいて部屋はあるといいます。値段もこの設備なら妥当な額だったので、ここにすることにしました。

部屋の鍵をもらいエレベーターに乗ります。止まらないだろうなあとちょっと不安になるが無事到着しました。部屋は普通のビジネスホテルですが、ちょっとうらぶれています。西日が入るので、まぶしいし、暑い。ちなみに暖房はあるが冷房はありません。窓を開けるだけです。そして、風呂のお湯は茶色で、やはり、旧東欧圏だと再認識しました。

2007年6月17日(日)晴れ

今朝は6時に起きて6:30にチェックアウトして駅へ向かいます。売店で朝食を仕入れていると、ホテルの表示が。そうです、この駅の中にホテルが併設してあったのです。

6:56発R982レ急行の待つホームへ。ディーゼルカーがキサハ3両を牽引した編成です。最後部はレールバスのトレーラーで、自転車を載せられる車両が連結されています。発車すると右へカーブし、その後は架線下をまっすぐ進み、比較的大きな駅Hradec Kralove hl.n.に停車しました。

次のJaromerでは6分の停車です。なお、電化はここまで。この先は緑多い丘陵地帯を単線で進みます。結構ハイキングらしい家族連れが乗ってきて乗客が増えてきました。支線と交差するStara Pakaに停車すると、構内でそれぞれ分岐していて、この急行の他にレールバスや気動車がそれぞれ接続待ちをしています。絵になる駅です。

Zelezny Brodに8:55に到着しました。向かい側で機回しをしているレールバスに乗りませす。交換列車からの乗客も乗せて26266レは5分遅れの9:06に発車しました。来た道に戻る形で発車して左にカーブし、溪谷を遡って行きます。途中の無人駅でほとんどの乗客が降りてしまいました。駅間にはカフェなどがあり、ハイキングでは有名な場所なのかもしれません。

終点Tanvaldの手前で場内信号開通待ちで



16211レ車内より、ラックレール



R982レ Jaromerにて

止められてしまい、結局10分遅れの9:37に到着すると、すでに接続の16211レは発車時間を過ぎていましたが待っていてくれました。

10分遅れて9:44に発車しました。ディーゼルカーとレールバスのトレーラーの編成なのですが、ディーゼルカーがトレーラーを押して発車したのです。この路線にはラックレール区間があり、どんな車両が活躍しているのか興味があったのですが、結局普通のディーゼルカーがレールバスのトレーラーを押し上げるという方法でした。確かに短編成で、最近製造の車であれば登坂は可能なのですね。

発車すると左の車庫にあまり見ないディーゼル機関車が何台か停まっていた。これがラックレール用なのかもしれません。

すぐにかかなりの勾配をゆっくりと上がって行きます。足元にラックレールが出現しましたが、使用している形跡がありません。普段の旅客列車では使用する必要が無いようです。

次の駅で前のトレーラーに引越し、一番前に行ってみました。最前部には車掌が無線機を持って前方を監視しています。なお、一歩でも踏み込むと注意されます。途中で製材所や工場への引込み線があり、貨物列車はラックレールを使うのではないかなと推測します。

終点のひとつ手前のKorenovに到着する際に、ポイントの手前で停車して、車掌が降りて鎖錠を解除して、側線を開通させました。そしてホームに着くと乗客全員が降りたのです。しばらくすると車掌が来たので「Harrachov」とメモを見せると「こっちへ来い」と

手招きされました。そこには1台のバスが停まっていた。そうです。バス代行です。

駅を出ると溪谷沿いの細い道を降りてゆきます。センターラインのある立派な国道へ出ると飛ばすこと。Harrachovの村の中心部のバス停が終点で、10分遅れの10:11に到着しました。もともとHarrachovの駅も町外れにあって、町までは連絡バスに乗るので一般の人は同じ手間です。

10:25発26200レとなる折り返し同じバスでKorenovへ戻り、列車へ乗り換えます。定時を過ぎてもなかなか発車しないのでおかしいなと思っていると、到着列車を待ち合わせてからポイントを転換して、車掌を拾いました。

坂を下って、Tanvaldに5分遅れの11:03に到着しました。接続のドレスデン行き土休日運転の臨時快速27972レはドイツ鉄道の新型ディーゼルカーで、こちらは3分遅れて11:05に発車しました。

久しぶりにエアコンの効いた車両で乗り心地もいい。結構小刻みにカーブの多いローカル線でそろりそろりと走ります。坂を下って行くと、右手に電化単線がついたり離れたりしています。これはLiberec市電の郊外区間で少し前の駅から平行して走っています。あちらは道路端の併用軌道や専用軌道を繰り返し走っているようで、途中からは市内へ別ルートで向かうのか見えなくなりました。

Liberecには3分遅れのまま、12:00に到着しました。この区間は以前旧型気動車が走っているのを見掛けて来たのですが、駅構内に



ドイツ鉄道の新型ディーゼルカー



26200レ—Korenovにて

も姿は無く、新型気動車が活躍しているのを見ると、この地区からは既に撤退したようです。昼食のサンドイッチとビールを仕入れて12:30発の6206レに乗車。やはりレールバスがトレーラーを牽引しています。どこか別の行き先へ向かう新型気動車と同時発車しました。なぜかこちらのほうが出足は早いですが、後で追い抜かれました。

まっすぐの複線を高速でっ飛ばします。忘れた頃に駅に停まり乗客を降ろします。Hradek nad Nisouに停まるとほとんどの乗客は降りてしまいました。それもそのはずで、この先の区間はポーランドとドイツの国内を走る回廊列車だからです。速度を落とすとポーランド領内へ入る。幅の広い石造りの橋梁を渡ると非電化のナロー路線がくぐり、こんどは平面交差しました。これは以前乗ったことのあるナローSLが走る路線ではないですか。

こんどはドイツ領に入りZittauに到着。ホームには税関と出入国管理所があり、ここを通らないと外に出られない仕組みです。出発するとドイツ鉄道の駅を通り過ぎ、本線に出ます。途中数駅あったが全て通過しました。駅名表の字体と言葉がドイツ語なのでドイツの駅なのです。

チェコ領に戻るとVarnsdorfに13:26に到着しました。地図を見るとこの駅の周辺だけチェコ領がこぶのようになっています。駅の周りはずぐドイツ領です。でもそんな感じは全く無く、街が続いています。レンガ造りの駅舎とホームの無い駅構内がチェコらしい。写真

を撮っていると旧西ドイツのレールバスが2連で到着しました。どこかで活躍していると知っていましたが、まさかここで活躍しているとは知りませんでした。先ほどのドイツ領内の各駅に停車してきた列車です。この先も本線はドイツ領に戻って行きます。

結果論になりますがZittauで降りて一度ドイツに入国し、別運賃を払いあのレールバスに乗ってVarnsdorfに降りれば両方楽しめました。でも知らなかったのだからしょうがありません。

折り返し14:07発2684/5レとなる列車がレールバス単行で到着しました。出迎えの母親らしき人が多かったのですが、林間学校に行っていたのか、小学生がたくさんの荷物を抱えて降りてきました。定刻に発車して、支線へ入ります。Sカーブがつづく坂を車輪をきませながら下りてゆくと、別の路線が合流するRybnisteに14:24に到着。

向かいに停車している14:28発2640/1レに乗り換えます。レールバスがトレーラーを引いた編成の後ろに新型DCの2両組がぶら下がっています。どうやら混結可能のようです。まああちらも2軸車には変わりないので当然レールバスに乗ります。今度もひたすら勾配をSカーブで下り続けます。高原地帯から駆け下りているようです。Liberecから直接来る路線とBenesov n.Plで合流するといろんな路線とインターチェンジのように交錯して川沿いのDecin.hl.nに15:39に到着しました。

これからECでベルリンへ向かいますが、



乗車予定だったEC172レはなんと45分遅れの表示が出ています。まず、チェコフレキシパスの範囲から飛び出す区間の乗車券を購入します。窓口で買おうとするとあっちのインフォメーションで買ってくれと言われました。国際乗車券は専門の窓口で買うようです。パスからはみ出す国境駅から先の乗車券をお願いしたが、どうしてもDecinからでないと売れないと言います。国境駅にECが停まらないからなのではないでしょうか。残りの時間は構内のビュッフェでビールをぐびり。チェコビール最後の一杯です。

16:44にやっと出発。2等なのに6人室のコンパートメントです。シートピッチが狭いがエアコンは完備です。ドイツのスイスと言われるエルベ川沿いの溪谷を進みます。途中に国境があるのですがこれといって地形上の変化はありません。ドイツとチェコの出入国管理官が入れ違いに来てパスポートをパソコンで照合の上、スタンプを押しました。空港と違い、鉄道のマークが入るのがまた良し。

バートシャンドウに停まりドイツへ入国です。ドレスデン停車直前に食堂車へ移動して、夕食を今のうちに済ましておきます。まずはチェコの黒ビールを頼みます。やはりうまい。料理はポークソテー。これは値段の割にはおいしくなかった。食後はポットのコーヒーを頼み、食堂車で粘ります。向かいには老夫婦が相席になりました。支払いになってひと悶着。カードが使えるとメニューに書いてあるのに、現金は無いのかと行ってきたのです。



EC172レ Decinにて

これからドイツに行くのでチョココルナは使ってしまったし、ユーロはベルリンで降ろすから日本円しか持っていません。(ちなみに代金は3000円程だった)財布の中身を見せるとウェイターはカードを引ったくりレシートを持ってきた。ちゃんとカードで決済されています。できるじゃないか。

客車に戻り、夕日を浴びながらドイツの平原を走ります。いままでこの列車はベルリン環状線を右に曲がり、ホテル最寄駅のベルリン0st、ベルリンZoo、と通っていたのですが、ベルリン中央駅が完成したため、左に曲がってまた右に曲がり、中央を貫く新線を通ります。結局Berlin Hbfに45分遅れのまま、19:57真新しい地下ホームに到着しました。遅れたお詫びなのか、降車した乗客に紙パックのオレンジジュースが配られました。

ATMでユーロを下ろしてから高架ホームのSバーンに乗り換えてBerlin Ostへ向かいます。今日のホテルはドイツ鉄道系列のインターシティホテルを予約しており、チェックインカードが市内交通の2日乗車券になっている上、駅と直結していてとても便利です。部屋に入るとレールとは反対側でちょっと残念でした。バストイレつき11600円。

## 2007年6月18日(月)雨

駅構内のイトインで簡単な朝食を取り、8:00に出発です。今日はベルリン市電の廃止が検討されている区間を回ります。



まずはSバーン5系統でMahlsdorfへ向かいます。乗車券はホテルカード。たまたまこの駅止まりの電車で、たださえベルリン市内と反対方向に向かっているの、だんだん乗客が少なくなってきました。ベルリンのこちらの方は緑が多く、駅の片側は森です。駅を降りて一区画行くと単線のレールが道路上を走っています。路地に入ったところが電停になっていて乗客が待っていました。終日20分間隔で、62系統次の発車は8:21。

ループ線から低床車2連が出てきました。単線のため、遅れている到着列車を待ってから発車します。狭い道路を車と一緒に進むのでこれでは電車は遅れます。交換駅だけは道路から外れて、また道路に戻ります。そのうち、道路端専用軌道になり、途中のループ線のある電停から複線となり、運転本数が増えました。お客はどんどん増えてきます。市場やSバーンの駅のあるKöpenickで乗客の多くは降りました。

次のSeelenbindenstr.で61系統に乗り換えます。しかし、乗り場がわからず、ひとつ先のGelnitzstr.まで歩いてしまいました。この辺はアパートが多い。道路の真ん中を複線の併用軌道が走っていますが、安全地帯はありません。道路端で待ち、電車が停まって道路の真ん中までゆき乗車します。すると、車はその間きちんと停まっているので安全です。この先路線は単線で二手に分かれるのですが、街の中心部で対向で合流し、また二手に分かれます。それぞれ20分間隔で重複区間は10分



間隔となります。

Sバーンの駅を過ぎると道路から外れて、森の中をいきます。Rahnsdorf/Waldschänkeが終点で、ループ線を回り、9:30に発車しました。先ほどのSバーンの駅があるFriedrichshagenで下車してSバーンの高架下駅をくぐりぬけ、反対側にゆくと右に曲がった森の一角に電停があり、小さい連接車が停まっています。88系統という番号がついていますが、れっきとした郊外私鉄路線。なので、先ほどの市電とはレールはつながっていません。軌間は狭軌で1000mmと思われます。車内に入ると床は木製。運賃は共通で、ベルリンの運輸連合に入っているためゾーン運賃が適用されます。

9:40に発車。おぼさんの運転でループ線を曲がると複線で森の中を飛ばします。住宅地に出て道路上を走るようになると、単線になりました。ひなびた郊外路線です。ところどころに交換駅があり、並木道を併用軌道で走ります。住宅が少なくなると道路端専用軌道となり、高速道路をくぐって、坂を下りて橋を渡ると比較的大きな町へ出てきました。このあたりで数少ない乗客は降りてしまい、心細くなります。中心街を過ぎ坂を上がりきるとループ線があって、終点Alt-Rüdersdorfに到着です。この先には畑が広がっていて、市街地の端であることがわかります。

折り返し乗車します。途中から少しずつ乗客が増えてきました。乗車券を持っていないと運転士から購入し、レシートのきっぷを受



け取っています。行きの電車ですっきり降りたおぼさんがまた乗ってきて運転士に紙袋を渡します。何か差し入れのようです。Friedrichshagenに戻ると11時でした。

ホテルのチェックアウトが12時だったので部屋に荷物を置いたままである。いったんホテルに戻るため、Sバーン3系統でBerlin Ostへ戻りました。

チェックアウトを済ませてクロークに荷物を預けてから再びSバーン3系統でKöpenickへ。駅前のレストランバーでとんかつと（ドイツ風）ビールでランチを食べて、ループ線を回ってきた68系統でAlt-Schmöckwitzに向かいます。駅前通りを進み、突き当りのT字路を左折して、教会の前の三角線を一方通行で回り込み川を渡って併用軌道に入ります。道は比較的大く、交通量は多いですが、車の走行には支障がありません。左手には湖があるようですが住宅が建て込んでいて見えませんでした。

Sバーン駅前のGrünauで乗客を入れ替えると湖岸の森の中を進むようになりました。並行する道路は一部区間車両通行止めになっていましたが。人家があまりありません。したがってお客は少なく乗降もあまりありません。全線複線で、左折してちょっとした集落に着くとループ線があり、13:00頃終点に着きました。ちょっとした飲食もできる売店もあり、使われていないような昔の車庫もありました。

折り返しSバーン駅前のGrünauまで乗車。トイレに行きたくなり、駅の反対側にあるショッ



ピングセンターへ。トイレはしっかり有料で入り口のお皿にコインを載せます。さすがにきれいで気持ちよく使えました。駅の表示を見るとフェリーの案内があります。湖岸に出ると簡単な桟橋があり、13:30頃出航して行ったところで、20分間隔で運行しています。バス停のような待合所で待つと対岸から小さな船がやってきました。歩行者と自転車やバイクが乗れる小さな船で自動車は乗れません。

乗ってしまえばすぐに対岸へ。少し歩くとすぐ市電62系統の電停があります。終点の電停まで1つだったので歩いてみると、並木道が広がる静かな住宅街でした。

ループ線のある終点では、清掃係が車内を清掃して運転士にサインをもらっていました。wendenschloBを14:14に出発。住宅街の道路を併用軌道で進みます。乗客は多く、途中に車庫がありました。大通りに出てきて左折すると、先ほどの教会を一方通行で回って、Lindenstr.で後続の67系統に乗り換えました。大通りを進むと、右手に大きな公園があります。その外周を小さな線路が敷いてあるようです。子供鉄道であろうか？

Edisonstr.で右に曲がって、後続の21系統に乗り換えます。この系統は単車が来ました。この辺りは繁華街だが一見して様子が違いました。肌の色が濃い人が多く移民街のようです。大通りから左に曲がると人家がなくなり、工場地帯を歩きます。当然乗客は少ない。

Sバーンをくぐって、Rummelsburg駅前に停まると、乗客が入れ替わります。ここで15



68系統 Köpenickにて



68系統 Alt-Schmöckwitzにて

:30。古めかしいレンガ造りのビルの間を進み、Holteistr.でM13系統に乗り換えます。この辺は昔のままなので道路が狭く、安全地帯もありません。なお、Mとはメトロラムの略称のようです。Warschauer Str.でSバーンに乗り換え、Berlin Ostへ戻り荷物をピックアップ。再びSバーンでBerlin Hbfに行き、駅前から空港連絡バスのTXL系統でベルリン・テーゲル空港へ。

しかし渋滞していてなかなかバスが来ない。やっと来たバスは超満員で、何とか乗車しましたが、専用バスではなく、一般道路を走行して主要停留所で乗降がありました。なんとか1時間前に空港に到着できて、チェックインカウンター手前でeチケットを見せるとなぜかビジネスクラスのカウンターへ案内されます。チェックインを済ませて搭乗券を受け取って手荷物検査へ。しかしこの検査が厳しく時間がかかります。皆さんも手荷物検査と手荷物預けカウンターを行ったり来たりしている間に出発が30分遅れて、19:20に離陸しました。

パリ・シャルル・ド・ゴール空港に21:00頃に到着。乗り継ぎの成田行きは23:25の出発なのでその程度の遅れは許容範囲内であり、乗り継ぎ時間が短くなって好都合でした。成田には翌日の18:00に到着です。

<おわり>



ホテルカードが乗車券に